

戦時下・伏せられた震災 1944 年紀伊半島沖 M7.9

80 年前の 7 日午後、紀伊半島東南沖で巨大地震が発生した。三重県や静岡県などで約 1200 人の死者を出した**昭和東南海地震**だ。戦争末期、軍が被害情報を抑え、「隠された地震」とされる。今なお災害の継承に影を落としている。

～裁縫^{さいほう}の授業の準備をしている時、激しい揺れが襲った。三重県長島町の国民学校 4 年生だった加藤^{かみこ}二三子さん(89)が校庭に出ると、何本もの地割れが走っていた。近くの砂浜に向かおうとしたら、「津波が来るぞ」と叫び声が出た。

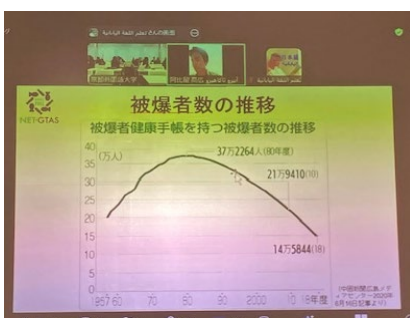
町を津波が襲う。家は沖へと流された。その晩、親族と山で野宿した。叔母が抱いた、生後 1 ヶ月弱の赤ちゃんは冷気で凍え、顔は紫色に。医者も徴兵されており、ようやく見つけた老医は「凍死です」と告げた。体調を崩した叔母も後を追うように 2 か月後に死んだ。覚えているのは公的支援がほとんどなかったこと。近くの親戚が米や野菜をわずかに届けてくれただけ。報道が抑えられ地震の被害が知られていなかったと戦後気づいた。

「昭和東南海地震津波の記録」(2018 年)によると、「翌日は(開戦の)真珠湾攻撃 3 周年の戦意高揚を叫ぶ日で、被害の報道はすべて伏せられた」と戦時下の災害の回想がつづられている。この地域には被災当時の写真もほとんど残っていないと、編集に関わった向井清隆さん(75)は言う。「次の南海トラフに備えるためにも証言を残しておこうと思った」 朝日新聞 2024 年 12 月 17 日(朝刊)より



京都ユネスコスクール高校研修交流会に参加しました

11 月 16 日、京都外国語大学で、「**京都ユネスコスクール高校研修交流会**」が 5 年ぶりに開催されました。総合探究で「平和学習」に取り組んだ UNESCO 部の高校 3 年生たちと 1 年生の 5 人が参加しました。今年のノーベル平和賞を受賞した「**被団協**(日本原水爆被害者団体協議会)」ともかかわりが深い「**NET-GTAS**(被爆者証言の世界化ネットワーク)」から阿比留^{あひる}高広さんのお話を聞きました。アラビア語の翻訳に関わる阿比留さんは、世界の視点から原爆投下という事件がどう見られているのか紹介したうえで、核兵器を持つ国へ言語を変えて発信することが大事だと語りました。ディスカッションを通して高校生の参加者たちからは、「平和実現のためにどんな政治的な要因がありますか」「核兵器を失くすという最終目標を同じにするためにはどうしたらよいか」「まずは日本人がよく知って世界に発信すべきだ!」という質問や意見が出ました。



食には生きる知恵が詰まっている

いざという時の作り方

思い出レシピ

炊くだけ

☆缶詰を入れて炊いたいちごめし

- ①米2合、いちご煮の缶詰、塩少々を炊飯器に入れ、水を規定量まで足してご飯を炊く。
- ②炊きあがったら味見をして、好みに応じて塩を加える。
- ③おにぎりを握る。

完成！

材料

米...2合 いちご煮缶詰※ 1缶 水...適量 塩...少々



ろうそくの明かりで食べたひっぱりうどん (冷やし、温うどんどちらも可)



※「ひっぱりうどん」は、鍋から器に「ひっばる」ようにしてうどんを取り出して食べる、山形県の郷土料理です。

作り方

- ①さば缶を開けて器に入れ、納豆は混ぜる。刻みねぎ、卵、めんつゆと一緒にテーブルに。
- ②大鍋にお湯を沸かし、うどんを表示通りにゆでて、鍋ごとテーブルに置く。
- ③ゆでた麺とお好みの具と薬味を器に盛り付け、めんつゆをかける。



材料 (1人分)

うどん ※乾麺...100g(")
納豆...1/2~1パック(1パック)
さば缶...適量(1コ)
刻みねぎ...適量(")

災害は、いつ何時あるかわかりません。いざという時、体力温存のためにも、簡単に美味しくできるメニューを紹介します。